

OPINION

中部経済新聞

ナビゲーター

20年3月、北米ではその頃からコロナウィルスのまん延が勢いを増し始めた。カナダでは企業が閉鎖され、パッチャルでの営業が開始された。学校も閉鎖され、同じようにパッチャルで教育が提供され、人々は家に閉じこもった。経済も停止した。

まずわが国、カナダの経済全体の動きをみてみよう。カナダ中央銀行(カナダ銀行、BOC)は6月初旬、政策金利を0・25%引き下げた。これは2020年3月以来の金利引き下げである。この間、実に多くのことが起きている。

日本への期待 世界各地から

其
92

このような環境を反映して、20年のカナダ経済はGDP(国内総生産)で5%以上減少した。念のため加えると、これは過去に類を見ない値で、リーマン・ショックが起きた08年の2・9%減をはるかに上回るものである。

翌21年、コロナとともに生きる(ウィズコロナ)ことを学ぶにつれて、経済は回復し、GDP成長率は前年比5・3%、22年には3・8%となった。23年には高金利のため、GDP成長率は1・2%に低

成長戦略に向けた中銀からのメッセージ

カナダから(上)

下した。

だが、21年と22年にカナダ経済が成長すると、インフレが頭をもたげた。消費者物価指数で測定すると、インフレ率は20年の0・7%から21年には3・4%、22年には6・8%となった。20年から22年にかけては当初、サブプライチエーンにおける危機が原因だったが、ウクライナでの戦争の勃発から、ウクライナが穀物の主要供給国であったため大混乱が起きた。

カナダ中央銀行はコロナま

んと延時に、経済を活性化させるため、政策金利を0・25%まで低下させたが、今度は景気を鎮静化させるために金利を引き上げ、インフレと格闘することを決定した。22年3月から17カ月間に10回の金利引き上げが行われ、23年6月には5・0%に達した。信じられないことだが、15カ月間にカナダ中銀の金利は4・75%上昇したことになり、多くの企業に衝撃を与えた。

インフレ率は先ほど述べたとおり22年には6・8%まで

なぜ、たった0・25%の金利低下がこれほど重要なシグナルになるのか、と多くの人は言うかもしれない。だが、それは金利低下率の大小ではなく、インフレが抑制され、だからこそ金利引き下げが続くというサインなのだ。要するに、これはスタートである。これは始まりであり、企業が事業の成長計画を実行に移す必要があることを示すものだ。「強気で市場に打って出る最初の兆候だ」という多くのビジネスリーダーは私は知っている。

【ブレン・ヨネミツ(カナダ・オンタリオ在住、リーム中産連)

(月曜日に掲載)